

AEARU STUDENT SUMMER CAMP 2015 報告レポート

工学部建築学科 3年

1. プログラムについて

AEARU Summer Camp とは、1996年に東アジアの大学間のパートナーシップ強化の為に設立された AEARU が主催する大学生向けのプログラムです。毎年テーマや開催地は変わりますが、今年では Innovation in science and technology をテーマとして、8月の16日～23日に中国・合肥の中国科学技術大学にて行われました。中国、韓国、日本、台湾から合計18の大学がこの事業に参加しています。主催大学は毎年変わり、今年では4つの国・地域の合計11大学から17人の学生が参加しました。

2. スケジュール

滞在中の予定は以下の表のようになっていました。

日程	スケジュール	宿泊先
16日(日)	合肥に到着	大学内ゲストハウス
17日(月)	午前：開会式、オリエンテーション、キャンパスツアー 午後：USTC 歴史博物館、国立粒子・放射線研究所、火の科学研究所 訪問 夜：ウェルカムパーティー	大学内ゲストハウス
18日(火)	午前：講義1 'Hefei-Wuhu-Bengbu Indigenous Testing Area: Strategy and Experience' By Song Wei 午後：国立物理化学研究所訪問、スポーツ大会 夜：KTV	大学内ゲストハウス
19日(水)	午前：サイエンスツアー1 (IFLYTEK Co. Ltd, USTC 最新技術研究所) 午後：サイエンスツアー2 (CAS Science Island, JAC International Co. Ltd)	大学内ゲストハウス

20日(木)	午前： 講義2 'Large Scale Quantum Information Processing: from Fundamental Researches to Practical Applications' By Chen Yuao 講義3 'Opportunities in China for International Entrepreneurs' By Lu Wei 午後：シティツアー 安徽省博物館	大学内ゲストハウス
21日(金)	黄山へ向けて出発	黎阳老街内ホテル
22日(土)	宏村訪問、合肥へ戻る	大学内ゲストハウス

3. 各日の様子について

1日目：

教室で開会式とオリエンテーションがありました。各自事前に用意していた自己紹介と自分の大学紹介のプレゼンを行いました。人によりまとめ方が全く違っており、他の国の大学の話を聞くのは興味深かったです。今回引率してくれる方の挨拶や講義を担当して下さる教授のお話を聞き、キャンパスツアーに行きました。この大学では、新入生は全員軍事訓練を受けることが義務付けられており、迷彩柄の制服を来て真剣にトレーニングをしている姿が見られました。午後は、大学内の歴史博物館や二箇所の研究所を見て回りました。火の科学(英語表記: Fire Science)というのは、日本では聞き馴染みがありませんが、火事が多い中国では特に発達した学問で、炎が周りの空気状態によって、風によってどのような動き方や変化をするのか研究する学問です。この Fire Science にまつわる論文数は世界で最も中国が多いようでした。夜は、教授たちもウェルカムパーティーに参加して下さり、とてもおいしい中華料理をいただき、和やかな時間を過ごしました。



▲ 左：USTC 歴史博物館の前にて集合写真 右：ウェルカムパーティーの様子

2日目：

朝から Song Wei 教授の講義があり、講義名は 'Hefei-Wuhu-Bengbu Indigenous Testing Area: Strategy and Experience' というもので、安徽省周辺の合肥を含めた三都市が、どれだけ革新技術を発展させ企業するチャンスの可能性に溢れた場所であるかという講義でした。そのあとは体育館で卓球とバドミントンに別れてゲーム大会を楽しみました。夜は、街の方へ KTV に行きました。KTV とは、中国や韓国ではカラオケのことを指すようです。教授も歌を披露してくださり、友達も東アジアのそれぞれの国の良い曲を歌ってくれ、このイベントをきっかけに更に仲良くなった気がします。楽しい時間でした。



▲ダウンタウンの様子 右：露店が多く見られる

3日目：

中国語と英語翻訳の最先端のスマートフォンアプリを開発している中国企業 IFLYTEK Co. Ltd を訪問しました。中国語で話したものをすぐに機械が聞き取り、翻訳するというものでスピードも早く、また幅広い分野の訳語も用意されており、便利であると感じました。技術研究所では、様々な実験装置や実験のサンプルなどが置いてあり、興味深かったです。研究所の建物自体も左右対称に二棟、壁が階段状に斜め方向に連なっているデザインのもので面白かったです。技術革新をコンセプトに、翼が飛び立つ形をイメージしてデザインしているようです。午後に訪問した、CAS Science Island は東京九段下の科学技術館に似ており、日常に利用されている色々な科学を身近に感じるための実験道具が展示されていて、楽しく体験できました。もう一つの JAC International Co. Ltd 訪問では、大型の核融合先進型超伝導核融合施設 EAST の見学をしました。日本でも原子力系関係者は見に行くほど有名なもので、見た目も迫力があり、とても貴重な経験ができました。



▲ 左：IFLYTEK Co. Ltd で開発しているアプリ 右：USTC 最新技術研究所



▲ 左：CAS Science Island の前にて 右：核融合施設 EAST

4日目：

講義2では、情報伝達のプロセスを図式化し、わかりやすく説明してくださりました。講義3は Lu Wei 教授の経営学に関する、起業をするには何が必要かというお話で、ユーモアがあり面白かったです。その教授の元で研究しているアメリカ人学生起業家の話も聞くことができ、アメリカビールを中国で売る会社を作っているそうです。午後は、バスで街のショッピングモールや安徽省博物館に行きました。博物館は中国の遺跡の出土品の展示がしてあり、独特な雰囲気を楽しめました。夜は皆で、先ほど講義をお聞きしたアメリカ人学生起業家 Calvin のお店に行き、ビールを飲みました。爽やかですっきりとしていて美味しかったです。

5日目：

朝早くから鉄道に乗り込み、黄山を目指しました。一時間半ほどで黄山駅には到着しましたが、天気が大荒れで冷たい雨が降ってしまい、レインコートをきながらの移動になりました。黄山には登りましたが、楽しみにしていた仙人が出てきそうな神秘的な山の風景を見ることはできず、辺り一面に霧が立ちこめていて残念でした。夜はこの地方で名物の笹を使った料理を食べ、その後近所を皆で散歩しました。



▲ 左：霧でほぼ何も見えなかった黄山 右：合肥名物の笹の料理

6日目：

この日は二つ目の世界遺産の宏村へ行きました。宏村は建築を専攻している私にとって非常に楽しみにしていた場所でもありました。白いレンガや木、石が組み立てられた町並みの中を歩くと、350年前も人がここで暮らしていて、現在も変わらず人々が生活を営んでいるという、悠久の歴史が感じられました。家の真ん中の部屋の天井は四角形で天井がなく、穴のように空が見える作りとなっているのですが、古くからここを通して空から家に幸せが入ってくると考えられているためだそうです。村には洗濯用の池もあり、更にこの池から各家まで水が引かれており、当時から水利システムが発達していたことがわかります。今でも当時の水利システムを利用して多くの商売人が暮らしていました。夜ごはんはこの地域の名物のエビをいただきました。最終日だったので、その後も大学近辺のバーに行き、お別れ会をしました。



▲ 左：宏村の入り口の橋 右：積み上げられた石でできた壁



▲ 左二枚：宏村の路地 壁はレンガや石造

▲ 右二枚：部屋の中 天井には空が見える窓がついており、木造扉には細かい彫刻が施されている



▲ 宏村内の池 洗濯にも使われていた

4. 学んだこと・所感

一週間のプログラムには、理工系の勉強要素も観光の要素も目一杯に詰め込まれており、毎日充実感があり非常に楽しく過ごすことができました。私は海外の現地までひとりで行くのは今回が初めてだったこともあり、トラブルも多々ありましたが、その分精神的に強くなれました。今回のキャンプは特に東アジアの国々からの参加だったため、友達との会話の内容は、雑談から、歴史、文化の違い、政治問題にまで及びました。隣国だからこそ抱えるデリケートな問題もありますが、今回のキャンプでは大学生の視点から問題を捉え、お互いにまっすぐに議論ができ、貴重な体験だったと思います。今の中国の様子も目で確かめることが出来、非常に興味深かったです。今回の留学で培った観点を大事にしたいと思います。同時に、東アジアの歴史、これまでの国同士の関わりにより興味を持ったので、更に勉強したいと思います。